



ヤギは庄内の通奏低音

チーム名：大阪音大ミュージックコミュニケーション専攻「こじメェ〜」

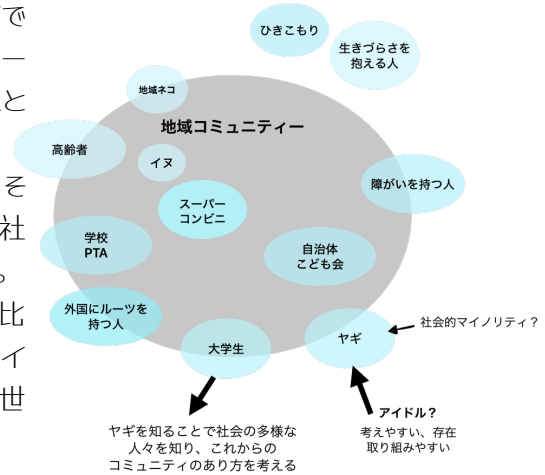
通奏低音とは・・・
音楽用語で演奏家が即興的に添える
和声の彩りのこと

■ アイデアのポイント

今回この企画のポイントは「ヤギ」を中心とした多世代が交流できるイベントを通して、動物の権利のみならず、社会的マイノリティを含めた包摂型社会的実現に向けた取り組みを市民と共に考えることである。

例えば、地域コミュニティの中に挙げられる大学生や高齢者、その他にも障害を持つ人や生きづらさを抱える方と、ヤギを知る事で社会の多様な人々を知り、これからのコミュニティのあり方を考える。

あえて動物（ヤギ）を挙げることで他の社会包摂的課題よりも比較的考えやすく、アイドル的存在としてヤギを見ることで社会的マイノリティを含めた包摂型社会的実現に向けた取り組みについて多世代の方と共に考えることができることがポイントである。



■ アイデアの理由

庄内の公共複合施設『庄内コラボセンター「ショコラ」』（R5.2月に開設）と義務教育学校「庄内さくら学園」が渡り廊下を共有している。「ショコラ」では、2023年の秋より一時的に2頭のヤギを飼育し、渡り廊下付近のバルコニースペースに繁茂した雑草をヤギによって駆除させる、実験的な取り組みを行っていた。

しかし現在、渡り廊下は防犯上の理由などからヤギのみが行き来を許されている。「ヤギには許され、人間には許されない行為がある」ということに着目し、ヤギを「人権を考える際のメタファー」として用いて、人権や地域住民の多様な在り方について考えるきっかけになり得ると想像した。

創立からまだ日が浅く、様々な利用方法が模索されている「ショコラ」を本企画の拠点とすることで、より馴染みのある場となることを目指す。



■ アイデアの流れ、スケジュール

1年目：ヤギを学び、ヤギを知る。
 （ショコラでヤギが活動している3ヶ月間）

- ヤギの生態を学ぶ講座
- プロモーション展開

似顔絵大会、ヤギの家庭や高齢者施設への訪問



2年目：ヤギの権利をみんなで考える。

- 人間とヤギが支え合う立場として存在できるイベント

（ヤギが好きな料理の開発、ヤギが着たい服の開発、ヤギが主人公のご近所映画、演劇）
 果たしてそれらがヤギのためになるのか・・・



包摂型社会的実現に向けた行政への提案へ（住民票取得、放し飼いへの環境設備など）
 地域で見守る仕組みづくり等へ発想をつなげていく。